

学校 番号	67	学校名	下伊那農業高等学校
----------	----	-----	-----------

令和4年度学校評議員活用状況報告書

第 1 回学校評議員会 【令和 4年 6月 23日（木）実施】

1 実施概要（協議研究事項を含む）

参加者

- ①学校評議員 4名（3名欠席）
 ②本校教職員 10名（校長、教頭、事務長、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、農場主任、自治活動主任、PTA係、教務係）

1 開会の言葉

2 校長挨拶

3 自己紹介

4 協議

(1)学校より

- ①学校概要及び学校の様子について（教頭）②本校の教育目標、中・長期目標及び学校評価、3つの方針について（教務部長）③令和3年度卒業生の進路状況等について（進路指導部長）④令和4年度キャリア教育全体計画について（進路指導部長）⑤生徒指導等の状況について（生徒指導部長）⑥グローバル・ハイスクール宣言について（農場主任）⑦稲丘祭（文化祭）について（自治活動部長）⑧PTA活動について（PTA事務局長）

(2)学校評議員より

(3)まとめ（学校長）

5 閉会の言葉

6 諸連絡

1. 第2回学校評議員会

日 時：令和5年2月27日（月）14:30～15:40

授業公開：5時間目 13:30～14:20

2. 稲丘祭

一般公開 11月3日（木）

3. 収穫祭

11月18日（金）

2 今回の実施に当たって工夫したこと

- ・多角的・多面的な視点からご意見等をいただくために、できるだけ学校の状況を端的に説明し、多くの意見をいただくよう努力した。

3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- ・大学等、上級学校への進学者が増えたことの原因は何か。
- ・進学等で外へ出て行ってしまい地元への気持ちが薄れてしまうことが心配である。農業以外でも活躍できる人材、母校に愛着が持てる生徒を育ててほしい。
- ・下農には「命を学ぶ」イメージがある。中学生が憧れる存在である。
- ・農業高校を出て、そのまま農業従事者になる生徒はどれくらいいるのか。農業は食糧

自給という観点からとても大事である。日本の食料問題を解決するのは自分たちだという気概を持ってもらいたい。

4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

・本校が地域に果たす役割や、専門高校としてのこれからの在り方を改めて認識することができた。今後は、「下農といえど・・・」という問いに「・・・」の部分をもっと答えてもらえるような特色を今以上に打ち出していく必要があると感じた。

※報告書は2枚以上になってもかまいません。実施後、できるだけ早く提出してください。
なお、報告書のみメール添付にて担当までご提出ください（会議用資料等は不要です）。